

1. 燃焼試験名：引火点（Flash Point）

可燃性物質（主に液体）を一定昇温で加熱し、これに火炎を近づけたとき、瞬間的に引火するのに必要な濃度の蒸気を発生する最低温度を引火点という

2. 規格：

	タグ密閉法	迅速平衡密閉法 (セタ密閉式)	ペンスキー マルテンス密閉法	クリーブランド 開放法
JIS 規格	JIS K 2265-1	JIS K 2265-2	JIS K 2265-3	JIS K 2265-4
ISO 規格	—	ISO 3679	ISO 2719	ISO 2592
測定範囲 ¹⁾	室温+10°C~93°C	-20°C~300°C	室温+10°C~300°C	室温+10°C~400°C
必要試料量 ²⁾ [測定 1 回]	300 mL [50 mL]	200 mL (g) [4 mL (g)]	400 mL [60 mL]	400 mL [70 mL]
測定対象	石油製品	石油、溶剤、塗料(エナメル、ラッカー、ワニスなど)	原油や重油などの燃料油、脂肪酸メチルエステル(FAME)	潤滑油など引火点が79°Cを超える石油製品
備考	粘性の高い試料や不均質な試料は適用不可	固体(危険物第2類など)や半固体試料にも適用可	塗膜ができやすい試料にも適用可	—

Lit. 住化分析センター資料

3. 試験体大きさ：

4. 火源：

5. 試験方法：セタ密閉法

測定方法：	<p>①試料カップに約2ml試料を投入する。(引火点100°C以上は4ml)</p> <p>②1分間保持する。(引火点100°C以上は2分間)</p> <p>③規定の時間に達したら4mmの試験炎を試料カップを開けて2~3秒のぞかせる</p> <p>④引火がある場合は自動で計測される。</p> <p>⑤引火が確認される最低温度を1°C単位で探し、引火点n=2の試験とする。</p>
-------	--

6. 判定基準：

7. 関連資料：

住化分析センター「引火点の測定」

<https://www.scas.co.jp/technical-informations/technical-news/pdf/tn436.pdf>

消防科学研究所報 5 号（昭和 43 年）

「各種引火点試験機による比較試験」

www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-gijyutuka/shyohou2/05/05-06.pdf

